



Nebraska  
UNIVERSITY OF  
Omaha



2021年 秋学期

ネブラスカ大学オマハ校 (UNO)

# 牧野スカラシップ奨学生募集



元静岡市国際交流協会事務局長故牧野豊氏が、生前に静岡市とオマハ市の姉妹都市交流促進に果たした功績を評し、ネブラスカ大学オマハ校 (UNO) で勉学を志す静岡市出身の学生に対し、正規授業料を減免する制度です。

奨学生には、ネブラスカ州出身学生と同額の授業料(通常の3分の1)が適用されます。

## ■ スカラシップ授与開始時期

2021年8月より学位の取得をめざす場合は、最長5年まで可能です。最短1年間の短期留学も可能です。

■ **募集人数** 1名

■ **申込み期限** 2020年12月25日 (金) までに必要書類を提出して下さい。(必着)

■ **面接日** 2021年1月9日 (土)

## ■ 応募資格

- (1) 静岡市内に在住、在学または勤務する者
- (2) 高等学校の成績が4段階評価でGPA3.0以上の者  
※GPA算出方法 = (アメリカのポイント×単位数) の全ての科目の合計 ÷ 総単位数
- (3) ボランティア活動に関心がある者(ボランティア活動経験があるとなお可)
- (4) TOEFL-IBTのスコア61点以上(ただし、英語、建築工学等を含む一部のプログラム選考の場合は、それ以上を必要とします。)

## ■ 応募書類

- (1) 所定の応募用紙  
(当協会のホームページより、ダウンロード、または、窓口で入手してください。)
- (2) 高等学校の成績証明書 1通
- (3) TOEFL-IBTのスコアの写し 1通  
(受験日から2年以内のものが有効)
- (4) 作文「UNOで学びたいこと」1,200字  
(A4用紙1枚)程度とその英語訳
- (5) 推薦状 1通 (高校の教師、職場の上司など本人をよく知る人物の推薦)



一般財団法人

静岡市国際交流協会

Shizuoka City Association for Multicultural Exchange

静岡市葵区追手町5番1号 静岡市役所17階

054-273-5931 ※平日の8:30~17:15

担当: 五條 E-mail: erikag@samenet.jp

Webサイトはこちらから

[www.samenet.jp](http://www.samenet.jp)

SAME 国際交流

検索



# OB・OGから学ぶ 牧野スカラシップを活用した 留学生活!!



## 第12期生 足立 久美子 氏

2017年8月～2020年8月の3年間、牧野スカラシップ制度を活用し、ネブラスカ州立大学オマハ校(UNO)のFine arts 分野で芸術・演劇・コミュニケーションなどを勉強しました。学生時代、姉妹都市であるオマハ市へ半年間留学した際に牧野スカラシップ制度のことを耳にしました。いつかまた、アメリカに留学をし、様々な国から学生の集まるオマハ市で自分自身を切磋琢磨したいと長年夢見ており、今回留学をすることに決めました。

私は一度、日本の大学を卒業しているため、3年間で卒業することを目標に、1年目は地理や自然科学などの一般教養の単位を移行し、移行できない英語などの一般教養の授業を受けました。アメリカの大学は自分の専門だけではなく、色々とチャレンジできるので、ビジネスや国際関係学なども履修しました。

入学当初は、寝る間も惜しみ勉強をし、翌日の授業やテストに備えました。また、演劇もしており、日々の予習・復習やテスト勉強との両立を努力しました。それでも、友人の発言が理解できなかったり、自分の意見を詳しく英語で発言できないことがあったりと、焦りや不安を感じることも多かったです。しかし、温かく迎えてくれたホストファミリーや、UNOの教授・友人たち、姉妹都市の方々、牧野スカラシップで留学している友人たちに支えて頂き、強い意思で学びを継続することができました。私の教授たちは、日本の映画監督や能文化などに大きな関心と尊敬の念を持っており、日本の文化の良さにも改めて気づくことができました。また、日本についての質問もされて、もっと日本のことも学びたいと思うようになりました。

わからないことを質問したり、諦めずに予習・復習したりすることで、だんだんと英語で理解し発信することを積極的にできるようになりました。演劇もアクセントや発音で非常に苦戦しましたが、2、3年目には舞台上で長台詞を話せるようになりました。自分を支えてくれた方々に恩返しをしたいという気持ちで、留学生をサポートする学生グループの一員として、留学生と買い物へ行ったり、イベントをしたりする授業外活動や幼い子どもたちへの情操教育に力を入れている外部の演劇団体などにも参加しました。幅広い年齢・国籍の方と関わり多種多様な文化や考え方を知れたこと、常に真剣に課題に向き合い取り組めたことは、自分の大きな糧となり、人間としての幅を少し広げることに繋がったと思います。

今後は、日本で再び教員として働きます。この3年間の経験を子どもたちとの関わりにも生かしていきたいです。また、これからもチャレンジ精神を忘れず、色々な経験をして成長していきたいです。最後に、私にこの機会をくださった皆さま、本当にありがとうございました。



外部講師による大学の講義にて